

# 令和4年度文化芸術による子供育成推進事業－巡回公演事業－

## ワークショップ実施計画書

制作団体名	株式会社デラシネラ
公演団体名	カンパニーデラシネラ

<b>内容</b>
<p>ワークショップでは、体育館にて体操服で出演者と一緒に生徒が動きます。他人とタイミングをあわせ動くことは、他者に対する想像力や、思いやりの心に繋がります。そして出演者の見本から出発し、生徒各々がイメージした動きを、実際に身体を動かしながら体験します。</p> <p>パントマイムで大切なことは想像力と、物事をよく観察することです。その二つをテーマに、相手の真似をすることから始め、随時発表の機会を交えながら、お互いに見合い尊重しあいながら、いろいろな動きに取り組みます。パントマイムの特性である創造性と想像力を大切に、舞台を身近に感じてもらえるよう、事前に学校を訪れ、生徒とコミュニケーションを取りたいと考えています。</p> <p>60名程度の受け入れで、30名以上の場合は1時限ずつ2クラスの、計2時限で予定しています。</p>

<b>タイムスケジュール（標準）</b>
1時限（45分～50分） 挨拶（5分）、実際に立って身体を動かす。 人形振りや真似っこゲーム等（15分） 二人組みになって相手と一緒に動く。（20分） 最後の挨拶（5分）

<b>派遣者数</b>
講師 2名

<b>学校における事前指導</b>
<p>生徒は体操服での参加をお願いします。</p> <p>講師2名が体育館で人形の様に立って待っております。もし水筒などを持参される場合は体育館の端に置いてもらい並んで座ってもらうようにしてください。</p> <p>ホワイトボード（黒板）1枚をお貸し頂けたらと思います。</p> <p>ワークショップ終了後に体育館の下見と打ち合わせをさせていただきたいので、15分ほどお時間をお願いいたします（担当の先生がお忙しい場合は代理の先生でも可。）</p> <p>その際、緞帳の開閉の確認をしたいので、電動の場合は操作に必要な鍵のご用意をお願いいたします。</p>

# 令和4年度文化芸術による子供育成推進事業－巡回公演事業－

## 本公演実施計画書

制作団体名	株式会社デラシネラ
公演団体名	カンパニーデラシネラ

<b>演目</b>
「劇場ではない場所」で行う 円形舞台 カンパニーデラシネラ 『はだかの王様』は、みんながあらすじを知っている物語を、子供から大人まで楽しめる身体表現に富んだ一時間の作品に仕上げました。セリフを使わず、パントマイムをベースにした演出で上演します。 カンパニーデラシネラは、劇場での作品発表の他、野外や小中学校に出向いての本格的な舞台作品を創作しています。舞台と客席の境界線を取払い、同じ地平で行うことを目標に、普段、劇場に足を運ぶ機会が少ない方と出会える機会を模索しています。演出家小野寺修二はパントマイム出身で、身体性に富んだ舞台作品を数多く発表。またこのプロジェクトは、プロダクトデザイナー石黒猛を美術家として迎え、作品中の様々な小道具が電動で動く仕組みが仕込まれています。体育館という日常の空間は、デラシネラと石黒猛の美術によって異空間へと誘われ、観客の想像力によって大いなる非日常へと飛躍します。

<b>派遣者数</b>
出演者 5名 音響 1名 舞台監督 1名 舞台助手 1名 ドライバー 1名 計9名

<b>タイムスケジュール（標準）</b>
11:00 到着・本番準備 [本番] 13:00 開場 13:10 先生のご挨拶・開演 14:10 終演・退場・片付け 15:10 退出

<b>実施校への協力依頼人員</b>
当日は体育館のチャイムを必ずオフにさせていただきをお願いいたします。 パイプ椅子を図面の個数、フロア中央に畳んで出しておいていただくと助かります。 上演の前後に先生のご挨拶をされる際に使用するワイヤレスマイクのご用意をお願いいたします。

### 演目解説

アンデルセン原作の童話『はだかの王様』は、群衆が共有した「幻想」を否定する(子どもが真実を指摘する)ことを軸としていますが、カンパニーデラシネラ『はだかの王様』では、忖度の糾弾という道徳的な切り口だけではなく、真実と嘘、現実と妄想のあやふやな境界線について着目し、身体表現に富んだ一時間の作品に仕上げました。身近にあるただの棒を何かに見立てたり、実際にはないものを観客が想像した結果、見えてくるものの豊かさについて考えています。

児童にとって馴染みのある童話『はだかの王様』を、独自の観点から、想像力を大いに刺激するパフォーマンスに展開しています。観客はあらすじを追うだけでなく、表現の可能性や新たな物の見方、視点に気づく機会となります。今作は台詞の一切ない作品で、小学校の低学年から大人まで、男女問わずそれぞれに楽しめる作品とご好評頂いています。観客の観察する力と想像する力を、最大限に引き出す演目です。

### 児童生徒の公演への参加方法、公演に参加させるための工夫

パントマイムを使った演劇でセリフがないため、児童自身が想像力を働かせ能動的に観劇頂くこととなります。身近な道具を使った見立てが数多く行われており、想像の助けになります。

また、人物相関図やあらすじが載ったパンフレットを配布し(事前にデータをお送りします。学校で印刷・配布をお願いいたします)、作品理解が深まるよう努めます。

### 児童生徒とのふれあい

演技エリアを囲ってコの字に着席するスタイルで、どの児童も臨場感あふれる距離で観劇頂きます。

本来ですと、舞台上で児童(希望者20名ほど)と一緒に踊る場面があるのですが、今年度はコロナ禍の影響もあり、見合わせ予定です。